

プレスリリース

平成13年4月27日  
水産庁漁場資源課  
独立行政法人  
水産総合研究センター

## 瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報

問い合わせ ・ 水産庁漁場資源課沿岸資源班

内線 7 3 7 6

直通 0 3 - 3 5 0 1 - 5 0 9 8

・ 瀬戸内海区水産研究所海区水産業研究部

代表 0 8 2 9 - 5 5 - 0 6 6 6

## 第32回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報

予報対象期間 平成13年5～6月

平成13年4月27日

### 参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場  
大阪府立水産試験場  
兵庫県立水産試験場  
岡山県水産試験場  
香川県水産試験場  
徳島県立農林水産総合技術センター 水産研究所  
中央水産研究所 黒潮研究部  
瀬戸内海区水産研究所 海区水産業研究部  
水産庁 増殖推進部 漁場資源課

## 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

(平成13年5~6月)

### 1. 海況の経過

#### 黒潮

黒潮流路は平成11年9月以降遠州灘以東で蛇行するB,C型が継続していた。

室戸岬沖の黒潮は、平成12年4~6月末にかけて概ね「やや離岸」傾向で推移した。その後、7月上旬に「かなり離岸」したが、9月後半まで「接岸」~「やや離岸」で推移した。9月以降多少の変動はあったが「やや離岸」程度で推移した。

潮岬沖の黒潮は、平成12年は8月上旬を除き「やや離岸」傾向で推移した。平成13年1~2月前半は「接岸」傾向にあったが、2月後半には45マイルまで離岸した。3月前半にやや接岸したが、3月後半以降やや離岸し45マイルに位置していた。

平成13年1~4月は黒潮の離岸に伴い、紀伊水道外域に内海系水の張り出しが強かった。

#### 水温(10m層データを基にした)

紀伊水道東部(和歌山県側)では、平成12年4~6月まで「著しく低め」~「やや低め」で推移したが、7~9月は「やや低め」~「平年並」となった。11~12月は「やや高め」、平成13年1月は「かなり低め」、2~3月は「平年並」で推移した。4月は「著しく低め」となった。

紀伊水道西部(徳島県側)では、平成12年4~12月まで「やや低め」~「平年並」で推移したが、平成13年1月には「かなり低め」となった。2月は「やや高め」、3月以降は「やや低め」となった。

紀伊水道北部(兵庫県側)では、平成12年4~10月まで「やや低め」~「平年並」で推移したが、11~12月は「やや高め」となった。平成13年1月以降は「かなり低め」~「やや低め」で推移した。

大阪湾東部(大阪府側)では、平成12年4~8月まで「やや低め」~「平年並」で推移したが、9~12月は「やや高め」~「かなり高め」となった。平成13年1月以降は「平年並」~「やや低め」で推移した。

大阪湾西部(兵庫県側)では、平成12年4~10月まで「やや低め」~「平年並」で推移したが、11~12月は「やや高め」となった。平成13年1月以降は「かなり低め」~「やや低め」で推移した。

播磨灘北東部(兵庫県側)では、平成12年4~8月まで「平年並」で推移した後、9~12月まで「かなり高め」~「著しく高め」となった。平成13年1月以降は「平年並」で推移した。

播磨灘南西部(香川県側)では、平成12年5月まで「平年並」で推移し、6~12月は「やや高め」~「著しく高め」であった。平成13年1月以降は「平年並」で推移した。

播磨灘北西部(岡山県側)では、平成12年4~8月は「平年並」~「やや高め」で推移

したが、9～12月は「やや高め」～「著しく高め」となった。平成13年1月以降は「平年並」～「やや高め」で推移した。

備讃瀬戸では、平成12年4～8月は「平年並」～「やや高め」で推移したが、9～12月は「やや高め」～「著しく高め」となった。平成13年1月以降は「平年並」で推移した。

各海域の水温偏差の推移を以下の表に示す。

海域	年月	H12.4	5	6	7	8	9	10	11	12	H13.1	2	3
紀伊水道東部		-	---	-	±	-	±		+	+	--	±	±
紀伊水道西部		±	-	±	±	-	±	±	±	±	--	+	-
紀伊水道北部		-	-	-	±	±	±	±	+	+	--	-	-
大阪湾東部		-	-	-	±	±	+	+	++	++	±	±	-
大阪湾西部		±	±	-	±	±	±	±	+	+	--	-	-
播磨灘北東部		±	±	±	±	±	+	++	++	+	±	±	±
播磨灘南西部		±	±	+	+	++	+	+	++	+	±	±	±
播磨灘北西部		±	±	+	±	+	+++	+	+++	++	±	±	+
備讃瀬戸		±	+	+	±	+	++	+	++	+++	±	±	±

±:平年並, +(-):やや高め(低め), ++(--):かなり高め(低め), +++(---):著しく高め(低め)。「平年並」は標準偏差の0.6倍未満, 「やや」は同じく0.6~1.3倍, 「かなり」は1.3~2.0倍, 「著しく」は2.0倍以上。

#### 塩分(10m層データを基にした)

紀伊水道東部(和歌山県側)では、平成12年4～5月に「やや低め」で推移したが、6～8月は「平年並」となった。9月に「かなり高め」であったが、11月以降は平成13年2月の「平年並」を除き「かなり低め」～「やや低め」で推移した。

紀伊水道西部(徳島県側)では、平成12年4～5月に「やや低め」で推移したが、6～8月は「平年並」となった。9月に「かなり高め」であったが、11月～13年2月は「平年並」で推移した。3月以降は「やや低め」となった。

紀伊水道北部(兵庫県側)では、平成12年4～6月まで「やや低め」～「平年並」で推移したが、7～8月は「やや高め」となった。9月以降は「やや低め」～「平年並」で推移した。

大阪湾東部(大阪府側)では、平成12年4～7月まで「平年並」、8～9月まで「やや高め」となった。10月以降は「平年並」で推移した。

大阪湾西部(兵庫県側)では、平成12年4～6月まで「平年並」で推移したが、7～8月は「やや高め」となった。9月以降は「やや低め」～「平年並」で推移した。

播磨灘北東部(兵庫県側)では、平成12年4～7月まで「平年並」であったが、8～10月まで「やや高め」～「かなり高め」となった。11月以降は「平年並」で推移した。

播磨灘南西部(香川県側)では、平成12年6～11月および平成13年1月は「やや高め」であったが、その他の月は「平年並」で推移した。

播磨灘北西部(岡山県側)では、平成12年4～8月は「平年並」～「やや高め」で推移したが、9～10月は「かなり高め」となった。11月以降は「平年並」～「やや高め」で推移した。

備讃瀬戸では、平成12年4～8月は「平年並」～「やや高め」で推移したが、9～10月は「かなり高め」となった。11月以降は「平年並」～「やや高め」で推移した。

各海域の塩分偏差の推移を以下の表に示す。

海域	年月	H12.4	5	6	7	8	9	10	11	12	H13.1	2	3
紀伊水道東部		-	-	±	±	±	++		-	-	-	±	--
紀伊水道西部		-	-	±	±	±	++	±	±	±	±	±	-
紀伊水道北部		-	±	±	+	+	-	±	±	±	-	±	-
大阪湾東部		±	±	±	±	+	+	±	±	±	±	±	±
大阪湾西部		±	±	±	+	+	±	±	±	±	±	-	±
播磨灘北東部		±	±	±	±	++	+	+	±	±	±	±	±
播磨灘南西部		±	±	+	+	+	+	+	+	±	+	±	±
播磨灘北西部		±	+	+	±	+	++	++	+	+	+	±	±
備讃瀬戸		±	±	±	+	+	++	++	+	+	+	±	±

## 2. カタクチイワシの漁況経過と予報

### (1) 漁況の経過

#### カタクチシラス

平成 12 年

紀伊水道東部（和歌山県側）での春漁（3～6 月）は前年を下回ったが好漁であった。5 月下旬には減少傾向が見られたが、6 月中旬まで漁が続いていた。しかし、夏・秋漁は低調であった。

紀伊水道西部（徳島県側）では 4～5 月中旬まで平年を下回る低調な漁であった。5 月上旬以降、黒潮が潮岬沖で接岸傾向に転じ、外海からのシラス流入環境が好転し、5 月下旬は平年並、6 月上旬は平年を上回る漁となった。

大阪湾では 5 月 8 日から漁が始まった。豊漁であった前年を大きく下回ったものの平年を上回る漁があった。6 月になり対象であったシラス群がカエリになったこと、新たな加入群が小さすぎたこと、クラゲの異常発生による操業支障等の理由により 6 月 7 日～6 月 14 日まで自主休漁とした。再開直後は一時好漁をみたが、8 月以降は前年並の極めて低調な漁となった。平成 11 年同様、夏に卵および稚仔の出現量が多かったにもかかわらず秋の漁には結びつかなかった。

播磨灘北東部（兵庫県側）では 5 月 25 日に漁が始まり、平年を上回る漁があった。6 月になり対象であったシラス群がカエリになったこと、新たな加入群が小さすぎたこと等の理由により 6 月 7 日～6 月 11 日まで自主休漁とした。再開後は新たな加入群を対象とし、ある程度の漁が続いていた。しかし平成 11 年同様、夏に卵および稚仔の出現量が多かったにもかかわらず秋の漁には結びつかなかった。

播磨灘北西部（岡山県側）では前年よりも 5 日ほど早い 5 月 25 日から漁が始まり、近年では好漁であった。体長組成は 20mm 台と 40mm 台の 2 つのモードがあった。

播磨灘南西部（香川県側）では前年および平年を大きく上回る漁があった。しかし 6～7 月の漁獲が年間漁獲の大半を占めており、8 月以降はほとんど漁のないまま漁期が終了した。

平成 13 年

紀伊水道東部（和歌山県側）で 3 月 26 日にマイワシシラス主体の漁が始まった。4 月中旬にカタクチシラスの加入が見られたものの低調な漁獲が続いている。平成 11、12 年と比較してカタクチシラスの加入時期が遅かった。

## カタクチイワシ

平成 12 年

紀伊水道外域（徳島県側）では 5 月は平年を下回ったものの前年を上回る漁があった。6 月は平年，前年を下回る低調な漁となった。

大阪湾では巾着網により 8～10 月に多獲され，前年，平年を大きく上回り好漁であった。播磨灘南西部（香川県側）では前年および平年を下回る漁であった。8～9 月の漁獲が年間漁獲の大半を占めていた。

備讃瀬戸では袋待網漁船で 6 月に産卵親魚と思われる大羽イワシ（尾叉長 105～110mm）の分布がみとめられた。9 月には中羽イワシ（50mm 台のモード）が多かった。

平成 13 年

紀伊水道外域（徳島県側）での小型定置網で 1～3 月の漁は前年，平年を下回り低調であった。

### （2）外海域での産卵量

平成 13 年 2～3 月に中央水産研究所が行った産卵調査では，カタクチイワシ卵の採集量は平成 12 年同期に比べて少なく 3 月に足摺岬沿岸，紀南沿岸でのみ採集された。和歌山県水産試験場，徳島県水産研究所が行った定線調査でも採集量は平成 12 年同期を下回り，平成 10 年を若干越える程度の水準であった。

### （3）予報

#### シラス（本年春季発生群，外海由来）

春シラスの補給源である 2～3 月における外海域での産卵量が平成 11～12 年に比べて少ない。また黒潮が潮岬沖で離岸傾向にあり，外海からの紀伊水道，大阪湾へのシラス流入環境（暖水波及）も前年と比較して悪い。4 月下旬の紀伊水道におけるカタクチシラス漁も低調である。以上の理由により，紀伊水道では前年を大きく下回り，不漁年の平成 9 年を上回る程度の漁となるであろう。大阪湾，播磨灘での漁も前年，平年を下回るであろう。

#### 小・中羽（本年春・夏季発生群）

本年春シラス漁の予測および近年の夏季発生群の動向から判断すると，大阪湾，播磨灘では，前年を下回る低水準の漁となるであろう。



